

◇ 立神峡 (たてがみきょう)

領内名勝図巻 第九巻 八代郡種山手永之内 衛藤良行筆

立神峡は八代郡氷川町の東方にある小規模な峡谷で、氷川が八代平野に出る直前、竜峰山層の堅い石灰岩帯を横断して形成されました。右岸には高さ 75m、延長 250m の石灰岩の岩壁が垂直にそそり立ち、「肥後の空滝」、「肥後の赤壁」などと言われています。

絶壁の頂上近くにアナンドサン（穴洞さん）と呼ばれる鍾乳洞があり、そこに立つ石筍をタチガミサンと呼んで、古くから信仰の対象とされてきました。上流から立神龍神（上宮）・不動明王（中宮）、火の国橋下手の熊野座神社（下宮）の三社があります。国道 3 号線の宮原交差点から 3 キロ足らずの場所にあり、平野部に近接する珍しい峡谷地形で、休みの日には観光客や家族連れでにぎわいます。

《領内名勝図巻》では川が大きく蛇行していますが、実際はこの位置でのカーブはもっと緩やかで、構図として相当デフォルメして描かれています。



ドローンで撮影した立神峡全景



峡谷をまたぐ火の国橋



領内名勝図巻

永青文庫所蔵



現在の風景



所在地：熊本県八代郡氷川町立神川上



ギャラリーに設置してあるタッチパネル式ディスプレイで 4k 画質の動画をお楽しみいただけます